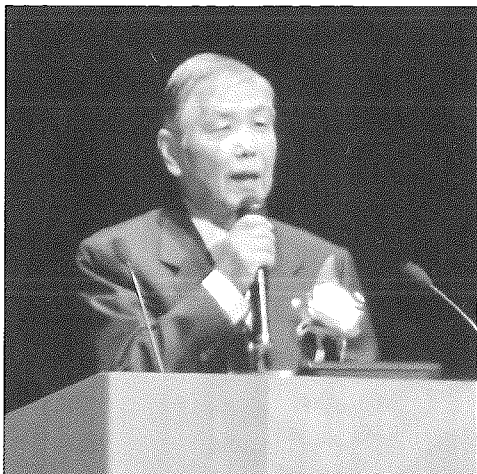




RIのテーマ

# 「人類に奉仕するロータリー」

ROTARY SERVING HUMANITY



## ロータリーの魅力とは何だろう

ガバナー 富田英壽

地域1番店経営という言葉がありますが、約40年前、「地域1番店経営」というセミナーが東京で、経営コンサルタント船井幸雄氏主催であるというので聞きに行ったことがあります。今は上場して船井総合研究所となっているようです。

ご承知のごとく、地域で1番の店の経営、たとえば小売店であれば、すなわち良質な商品を提供する、品揃えを多くする、コストを出来るだけ安くする、接遇のあり方を考えよくする、アフターケアをよくする、顧客の顔と名前を覚える、集客力のある店舗の場所を考え、駐車場を広くとるなど、いろいろな点で努力し、地域で皆さんのためになる地域の一番店となれば自然と顧客は集まってくる。それに、その店オンリーワンのものを考えればさらに繁栄するだろう。これが地域一番店の経営であると言うことであつた。業種によっては地方から福岡県に、さらに全国にと拡大することが出来れば全国的な企業に発展していくのも夢ではない。このようなセミナーであつたように思います。時代が変わって現在は、商売も量販店、通販、インターネットショッピングなどという商法がでてきたのでなかなか難しくなってきたようです。何もここで経営の話をするつもりはありません。

ロータリーには、このような地域での1番店の主人や一流企業の幹部の人が、良質な職業人として選ばれて入られておられます。すなわち一流の良質な職業人の方々と週に一度の例会で会うことができ、すなわち異業種交流ができ、自己を高めることが出来ることは大変魅力のあることであります。そしてこのような人たちと、ロータリーファミリーとして親しく付き合えることはさらに魅力的であります。

ところで、魅力とは、我々を魅了するもの、引きつけるものであります。

ロータリーの魅力について考えてみますに、一体それは何でしょう。ロータリーの魅力とは、「ロータリーに入りたい」「ロータリーに入れてもらいたい」と感じるものでありましょう。既にロータリーに入っておられる人々には、ロータリーに引きつけるものがあつて、何時までも在籍したいと思わせ、止めたくないと思うことでしょう。

ロータリーの魅力は、「Service(奉仕)」だと言われる方がおられますが、勿論、「Service(奉仕)」は、ロータリーの2つの根本の1つであり、ロータリーの大事な目的です。それは、「ロータリーの目的」(The Object of Rotary)にも、はっきり述べてあります。「ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理念を奨励し、これを育むことにある」とあります。

しかし、この「Service(奉仕)」が、我々ロータリアンの第1の魅力でしょうか。目的と魅力とは違うと思えます。この「ロータリーの目的」は、我々ロータリアンの理念であり、努めであり、実践目標であります。

ロータリーの第1の魅力は、ロータリーのもう1つの根本である「Fellowship(親睦・友愛)」にあると思えます。地域の良識ある職業人と知りあい、親しくなり、友人度を高めていき、自分をいろんな面で高め、成長させていくことでしょう。言い換えれば地域の色々な職業のリーダーである人々、立派な尊敬する異業種の方々とふれ合う中で自分の教養を高め、人格を高めていき、立派な職業人となっていくことでしょう。自分の職業倫理性を高め、人のために、社会のために役に立つことを学び地域の良き指導者として育つ

ていくのです。ロータリーは人をつくる団体だという人がおります。またロータリーは卒業のない人生の大学だと言った人がいます。このような良識ある色々な職業人の集まり、それも一業種一会員を理想とする団体は、ロータリーの他には見あたりません。これこそがロータリーの最大で、第1の魅力だと思います。

ですから、例会が大事であります。最近ではEクラブなどが考えられていますが、Face to Faceの例会でなければ、一番の魅力であります「Fellowship(親睦・友愛)」が損なわれます。ロータリアンは、地域に限らず、日本のどこのクラブにも、世界のどこのクラブにも出席でき、お互いふれ合い、親しい友人を作ることが出来ます。その中から職業サービス(Vocational Service)を学び、社会サービス(Community Service)がどんなものか学ぶことになるのです。さらにクラブサービスを、青少年サービスや世界サービスを学んでいくことになります。これらロータリー5大サービスの精神を広め、推奨し、実践していくことがロータリーの目的であります。

ロータリーは、もともと歴史的に個人サービスを大事にしてきました。サービスの実践に当たっては、理念的には個人サービスの精神をもって、その目的や事例により、どちらが効果的かを考えサービスの方法を選んで個人サービスでやったり、団体サービスでやったりすれば良いのでしょうか。サービスの理念(Ideal of Service)に合致すれば、その方法は、それぞれのロータリアンやクラブの考えでやればよいのではないのでしょうか。このようなサービスの機会を持つことが出来るのも、ロータリーの1つの魅力でありましょうが、ロータリーの最大の魅力とは言えないでしょう。ロータリーで、多くの社会サービス、青少年サービスや世界サービスの機会を持つことが出来ますが、このようなサービスは、ロータリーには入らないでも、自分でも、他の団体でもいくらでも地域社会に、世界に対しても出来るわけです。ロータリーが企画した立派なサービス活動に賛同すれば、ロータリーに入らないでもロータリーに、ロータリー財団に、金銭的奉仕(寄付)することがいくらでも出来るようになっていきます。

## 基本に戻って、魅力あるロータリーに

このロータリーの最大の魅力である「Fellowship(親睦・友愛)」を大事にしていかなければ、ロータリーはますます魅力を失い、会員もさらなる減少を来してくるものと予想されます。ロータリーは、単なる慈善奉仕団体ではありません。世の中には、ロータリーよりも多くの立派な慈善奉仕活動で貢献をしている団体があります。ロータリーには、このような慈善奉仕団体では持つことが出来ない大きな魅力があります。それがロータリー独特の「Fellowship(親睦・友愛)」であります。

昨今の国際ロータリーの動向は、少し気になります。皆さんは「入って学び、出でて奉仕せよ」【Enter to learn, go forth to serve】という言葉聞いたことがあると思います。この言葉はガバナーエレクトが毎年1月にアメリカに研修に行く国際協議会の大会場の入り口に長年掲げられていたものです。ところが私が研修に行った2016~17年度から、この言葉が外され、「さまざまな「リーダーが集まり」「アイデアを取り交わし」、社会のために「行動しよう」【Join Leaders, Exchange Ideas, Take Action】と変わりました。なんという変わり方でしょう。今まで一番大事にしてきた例会に出て、色々な方々と交わって、学んできたのが、このように学ぶ姿勢がなくなってきました。RI会長のジャームさんも、「例会に出る暇がなかったら、奉仕しよう」と言っています。そして、会員資格の柔軟性が取り入れられ、基金を多く集めたいためかロータリーの基本を外れた、会員増強に力を入れているようです。

私たちは、ロータリーの基本であります決議23-34号の精神を大事にしていき、日本の素晴らしいロータリーを大事に行きたいものです。

ロータリーの最終の目的は、世界平和です。戦争のない世界を作ることです。それは世界の良識ある職業人が、1人でも多く親しい友人になり、ネットワークを作り、すなわち国際親善によって戦争を無くそうと願っているものです。その根本がロータリーの「Fellowship(親睦・友愛)」であります。

以上